

公私立大学実験動物施設協議会平成 29 年度総会議事録

【総 会】13：00～14：30

日 時：平成 29 年 6 月 2 日（金）

場 所：自治医科大学 地域医療情報研修センター

会員（施設）数：179

出席会員（施設）数：116

委任状提出会員（施設）数：30

代議員（代理出席を含む）数：170

来 賓：5

オブザーバー参加：3 名

出席者合計数（代議員+オブザーバー）：173

1. 開会の辞：

下田耕治副会長（慶應大）から出席会員（施設）数と委任状数の総計が過半数を上回るため本総会が成立することが報告され、公私立大学実験動物施設協議会（以下「公私動協」という）の平成 29 年度総会の開会が宣言された。

2. 黙祷：

平成 28 年度に逝去された 2 名の元公私動協役員、川本英一先生（東京医大）ならびに金井孝夫先生（東京女子医大）に哀悼の意を表し、出席者全員で黙祷を捧げた。

3. 来賓紹介：

下田耕治副会長から、以下の 7 名の来賓が紹介された。

文部科学省研究振興局学術機関課研究設備係長(併)研究支援係長	中嶋 大輔 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課ゲノム研究企画調整官	野田 浩絵 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係長	佐々木雄希 様
文部科学省研究振興局ライフサイエンス課生命科学研究係	山脇 雄太 様
国立大学法人動物実験施設協議会会長	甲斐知恵子 様
厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会副会長	岡村 匡史 様
厚生労働省大臣官房厚生科学課健康危険情報分析官	大曾根 誠 様

なお、ご出席予定であった文部科学省研究振興局ライフサイエンス課の佐々木雄

希様ならびに山脇雄太様はご都合により欠席された。

4. 会長挨拶：

喜多正和会長（京都府立医大）から、総会への参加者が年々増加し、今回も多数の参加者があったことに対して感謝の意が表された。また、関係者に対して引続き活動への協力依頼がなされた。

5. 来賓挨拶

以下の方々からご挨拶をいただいた。

中嶋 大輔 様 当日配付の「平成 29 年度公私立大学実験動物施設協議会総会配付資料」の概略を説明された。学術機関課では、大学の枠を超えた多岐の分野にわたる共同利用、共同研究を推進している現状にあり、平成 30 年度も引続きネットワーク型拠点を拡大する方針であることが報告された。

野田 浩絵 様 当日配付の「研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針（以下、「基本指針」という）について」を基に、基本指針の遵守の強化を要請され、特に動物実験の水準の向上の為に情報の公開ならびに外部検証の受審が重要であることを強調された。動物実験の機関管理を機能させていくために連携して一丸となって取り組むことを呼びかけられた。

甲斐知恵子様 動物の愛護及び管理に関する法律の改正が迫っている中で、一部の動物実験反対団体の活動が障害となっているが、生命科学の発展のためには動物実験の機関管理を進める必要がある。そのために、国立大学法人動物実験施設協議会（以下、「国動協」という）、公私動協ならびに厚生労働省関係研究機関動物実験施設協議会（以下、「厚労働協」という）の協力体制の継続を説かれた。また、国動協と公私動協の合同事業であった動物実験の外部検証事業が日本実験動物学会に移管したことを報告され、外部検証を行う調査員等の養成のために予算の確保が必要であると述べられた。

岡村 匡史 様 昨年度、厚労働協は、厚生労働省の所管する動物実験実施機関や動物愛護団体に対して外部検証に関するアンケート調査およびヒアリングを行った。その結果より、厚労働協では、厚生労働省の所管である製薬企業等が適正な動物実験の施設であるとの認証を行っている HS 財団を利用している機関が少ないことが判明した。その原因として、厚生労働省の外部検証の受審に係る指導の問題と認証取得に必要な経費の問題があると推察された。今後は、厚生労働省所管の小規模施設の外部検証受審（認証取得）に対応する手段を国動協ならびに公私動協と共に考えたいと強調された。

大曾根 誠 様 平成 17 年の感染症法における動物輸入制度の導入時に懸念された

遺伝子組換え動物の輸入停滞は、公私動協等の協力により問題が発生しなかったこと、ならびに、これまで輸入動物等を介した感染症の発症はないことを報告された。また、厚生労働省の基本指針の遵守状況について調査した結果を近いうちに省内で検討予定であることが報告された。さらに、基本指針の適合が十分でない厚生労働省所管の機関に対しては今夏以降に説明会および研修会を開催して情報を提供する予定であることを報告された。

6. 議長選出：

下田耕治副会長のもとで議長選出の手続きが行われ、寺田 節代議員（獨協医大）が議長に選出された。

7. 議 事：

(1) 報告及び承認

① 平成 28 年度会務報告及び活動報告

喜多正和会長（京都府立医大）から、平成 28 年度定期総会、第 22 回シンポジウムおよびサテライトミーティングの開催、会誌（公私動協年報 No. 24）の発行、平成 28 年度役員会の開催、ICLAS モニタリングセンター運営検討委員会への出席、平成 28 年度国動協総会への出席、動物実験関連団体円卓会議への出席および動物実験関係者連絡協議会総会への出席が、総会資料に基づいて報告された。また、「外部検証事業の移管に関する合意書（別添資料 1）」を提示され、日本実験動物学会理事長、国動協会長ならびに公私動協会長の合意のもとに、動物実験の外部検証事業を日本実験動物学会に移管したことが報告された。さらに、全ての委員会における平成 28 年度活動報告がなされた。これらについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

② 公私動協役員選挙規程の改正について

組織・制度検討委員会の安藤隆一郎委員長（東北医薬大）から、「公私立大学実験動物施設協議会役員選挙規程の改正（案）（別添資料 5）」が提出された。これについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

③ 平成 29 年度公私立大学実験動物施設協議会役員選挙について

選挙管理委員会の秋元敏雄委員長（日本医大）から、「平成 29 年度公私立大学実験動物施設協議会役員選挙実施要領（別添資料 3）」に基づいて選挙を行う予定であることが報告された。これについて議長が採決を諮り、賛成多数で承認された。

④ 平成 28 年度会計報告

下田耕治副会長・事務局長から、「平成 28 年度会計収支計算書」および「財産

目録」の内容を説明され、会計報告がなされた。

⑤ 平成 28 年度監査報告

鈴木さつき監事（日本歯大）から、予算の執行が適正かつ妥当であった旨の会計監査報告がなされた。

議長が採決を諮り、平成 28 年度会計報告ならびに平成 28 年度監査報告は賛成多数で承認された。

⑥ その他

無し

(2) 審議事項

① 平成 29 年度事業及び活動計画（案）

喜多正和会長から、各委員会に新しい委員として平成 29 年度より参画していただく、大杉剛生代議員（酪農学園大－学術情報・広報委員会）、丸山基世代議員（日本医大－教育・研修委員会）、大石久史代議員（名古屋市立大－教育・研修委員会）、小泉 誠代議員（慈恵医大－バイオセーフティ委員会）、佐々木 崇代議員（札幌医大－バイオセーフティ委員会）、磯野協一代議員（和歌山県立医大－記録・編集委員会、調査委員会）ならびに斉藤美知子代議員（京都薬科大－記録・編集委員会）が「委員会委員名簿」を基に紹介された。

また、「平成 29 年度総会資料」に基づいて本総会を開催していること、会誌「公私立大学実験動物施設協議会年報 No. 25」を発行予定であることおよび役員会の開催を予定していることが報告された。さらに、会員施設の外部検証の実施を推進すること、法令遵守の周知を図ることおよび国動協ならびに厚労働協等との連携を強化して法改正に備えることを運営方針とすることが述べられた。

引き続き、総会資料に基づいて、全ての委員会の委員長から各委員会の委員の紹介ならびに活動計画（案）が報告された。

田中聖一学術情報・広報委員会委員長（福岡大）からは、名簿システムの導入に伴うメーリングリスト更新の不手際、および年初の UMIN サーバー変更に伴ってホームページに混乱があったことについて陳謝があった。また、公私動協会員専用ホームページ（HP）にアクセスするためのパスワードを翌週の 6 月 5 日 9:00 から変更予定であることおよび新しいパスワードが報告された。

また、佐加良英治教育・研修委員会委員長（兵庫医大）からは、実験動物管理者のための教育訓練を 6 月 3 日（金）に自治医大で行うこと、また、受講できない会員の便宜を図るため、教育訓練の資料を会員専用 HP に PW を設定し掲載予定であること、実技講習会を 9 月 2 日（土）～3 日（日）に日本獣医生命科学大を会

場として企画していること、およびその案内を6月16日（金）に代議員MLで通知予定であること、また、平成30年度の実験動物管理者のための教育訓練は、平成30年6月1日（金）の総会開催前の午前8:00から行う予定であることが案内された。

さらに、國田 智バイオセーフティ委員会委員長（自治医大）からは、今年度末を目途として各機関で教育用に使用できるバイオセーフティ関連資料をパワーポイントで作成中であることが報告された。長尾静子アドバイザー委員会委員長（藤田保健衛生大）からは、話題になっている問題を時代に即して捨取選択したQ&A集を編集して、平成30年度の総会開催時に会員に配付予定であることが報告された。

これらに対する質疑は1件あり、田中聖一代議員から、明日6月3日（土）に開催される実験動物管理者のための教育訓練に総会終了後における参加申し込みの可否が問われた。これに対し、佐加良英治教育・研修委員会委員長は、本日中の申込みであれば受講可能であると回答した。

その後、議長が採決を諮り、活動計画(案)は賛成多数で承認された。

② 平成29年度予算（案）

下田耕治副会長・事務局長から、「平成29年度収支予算案」が提示され、名簿システムを導入したこと等により、昨年度よりも214,000円予算を増額したことが説明された。会員からの質疑は無く、議長が採決を諮り、収支予算（案）は賛成多数で承認された。

③ その他

無し

8. 表彰：

退職のため公私協役員を辞された、磯貝 浩先生（札幌医大）ならびに宮嶋正康先生（和歌山県立医大）の長期間にわたる多大な貢献に対し、感謝状が贈呈された。

9. その他：

○ 平成30年度定期総会の開催について

平成30年度定期総会は以下の通り開催予定である旨が、担当する鈴木 真代議員（沖縄科学技術大学院大）から報告された。詳細はホームページに掲載される。また、多数の代議員からの要請があれば、翌日の6月2日（土）に沖縄科学技術大学院大学の見学ツアーを企画することが提案された。

日 時：平成30年6月1日（金曜日） 13:30～17:00（予定）

会 場：沖縄コンベンションセンター

〒901-2224 沖縄県宜野湾市真志喜 4-3-1

電話番号：098-898-3000（代表）

追加として、喜多会長から、今回は遠方での総会開催であるため、従来は会員（施設）の代議員宛にのみに配付していた総会開催案内を会員の所属機関の学長宛にも通知して総会参加の必要性に対する理解を深めるよう努め、より多くの代議員等が参加できるように図りたいと、提案された。

10. 閉会の辞

國田 智副会長から閉会が宣言され、公私動協平成 29 年度定期総会が閉会した。

資 料：

1. 公私立大学実験動物施設協議会 平成 29 年度定期総会資料
2. 平成 29 年度公私立大学実験動物施設協議会総会配付資料 平成 29 年 6 月 2 日 文部科学省研究振興局学術機関課
3. 研究機関等における動物実験等の実施に関する基本指針について 文部科学省研究振興局ライフサイエンス課

【第 23 回シンポジウム】 14：40～17：00

座長（國田 智（自治医大）・久保 薫（奈良県立医大））の進行のもとで、下記の 3 題についての講演と質疑が行われた。要旨は総会資料に掲載してある。

1. NBRP 外部検証の人材育成プログラム
喜多正和（京都府立医大）
2. 動物愛護管理法の歴史的経緯
則久雅司（環境省自然環境局総務課動物愛護管理室室長）
3. 動物福祉に配慮したげっ歯類の麻酔法・安楽死法
鈴木 真（沖縄科学技術大学院大）

【平成 29 年度サテライトミーティング】

総会及びシンポジウムの終了後、平成 29 年 6 月 2 日（金）17：00～19：00 に、自治医大友会館において平成 29 年度サテライトミーティングが、本総会の担当者である國田 智代議員の司会のもとに行われた。磯貝 浩先生（札幌医大）からのご挨拶がなされ、國田 智代議員からは、自治医大の先端医療技術開発センター（ピッグセンター）

の紹介がなされた。また、新規入会会員の紹介と挨拶も行われた。

出席会員（施設）数は62（オブザーバー3校を含む）、出席者総数96名（内、代議員とオブザーバー：94名及び来賓2名：岡村匡史先生、則久雅司先生）であった。

以 上